

キキョウ *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。全国的に減少傾向の著しい、代表的な草地性植物である。

【形態】

多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ 50~100cm になる。葉は茎の下部では対生または 3 輪生、上部では少しずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4~7cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があつて粉白色をおびる。花期は 7~8 月、茎の先端部に 1~数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は 4~5 裂し、直径 4~5cm である。雄ずいは 5 個で、雌ずいより先に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 2 豊根 (加藤等次 3462, 1993-8-2)、9 鳳来南部 (芹沢 60126, 1991-8-29)、12 新城 (芹沢 72228, 1995-8-20)、13 豊川 (芹沢 66962, 1993-8-20)、15 豊橋北部 (芹沢 67034, 1993-8-23)、17 田原東部 (芹沢 88558, 2013-7-14)、18 田原西部 (小林 46031, 1993-8-6)。西: 5 稲武 (小林 47165, 1993-8-29)、19 旭 (芹沢 62504, 1992-8-22)、20 足助 (新井文子 854, 1994-7-26)、21 下山 (芹沢 87759, 2012-8-10)、22 小原 (芹沢 56581, 1990-8-25)、23 藤岡 (鳥居ちゑ子 2590, 2007-8-30)、24 豊田東部 (畑佐武司 4525, 2002-7-28)、25 豊田北西部 (畑佐武司 4683, 2002-8-12)、27 みよし (臼井里華 708, 1992-8-26)、28 額田 (福岡義洋 1028, 1990-7-30)、29 岡崎北部 (杉田一記 1196, 2010-8-6)、30 岡崎南部 (芹沢 70992, 1994-9-22)、34b 碧南 (堀田喜久 5390, 1996-8-12)、36 西尾南部 (芹沢 70200, 1994-8-2)。尾: 37a 瀬戸 (芹沢 74804, 1998-8-7)、38a 長久手 (芹沢 76313, 1999-9-10)、39b 豊明 (浅野守彦 576, 1999-8-8)、41b 知多 (芹沢 76040, 1999-8-3)、42a 阿久比 (渡邊麻子 855, 1995-9-28)、42b 半田 (岡本久美子 759, 2000-9-5)、43 常滑 (芹沢 76146, 1999-8-21)、44b 南知多 (芹沢 82122, 2007-8-30)、45 犬山 (松田ちか子 637, 1986-8-12)、48 春日井 (山田果与乃 488, 1999-8-22)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 1986, 2001-7-13)、51 名古屋南東部 (伊藤晶子 140, 2003-7-18)。11 作手 (小林 2000)、14 蒲郡 (小林 2004)、33 安城 (安城市史編集委員会 2005) にもあるという。38b 日進 (岩崎, 酒井 s.n., 1933-7-24) で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球 (請島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、ウスリー。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

全国的には減少傾向が著しいが、愛知県ではまだ比較的多く残存している。しかし、愛知県においても、個体数は急激に少なくなっている。平野部に近い区画では、河川の堤防、水路わきの草地などに僅かに残存しているだけである。一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。個体数の減少につれて、園芸目的の採取も目につくようになっていく。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地 (いわゆるボタ) には、本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、河川の堤防や幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。堤防や水路を改修する際には、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の「朝貌」は、本種のことだと言われている。彩色画は 2009 年版図版 10 に掲載されている。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編). 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.90. 安城市, 安城.
小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.147. 愛知県, 名古屋.
小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.167. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本 I p.91, 平草本 III p.149, 平新版 5 p.194, 環境省 p.515, SOS 新版 p.83,85.